
BLEACH 転生者

ゆき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BLEACH 転生者

【NZコード】

N5784Y

【作者名】

ゆき

【あらすじ】

神のミスにより転生したBLEACH の世界で戦いや日常とか描くものかな

プロローグ

突然ですけど俺死んでしまいました

・・・うん、みんなの反応はよくわかるまあ氣にするな

氣になるか

とりあえず、今までの経過を教えようじやないか。

まあ友達と一緒に家に帰る途中でした

あるビルの近くを通りかかったとき上から鉄骨がたくさん落ちて

きました

それで俺死にました

さすこしたらベットの上じゃなくて知らない昔の家だったんだ
家のなかを見渡すと家具や生活に必要最低限の物が置いてるんだ

「俺死んだはずじやないつけおかしいな。あれは結局夢だったのか
？まあ夢おひかよかつた

独り言を呴いているとテーブルに手紙が置いてありました。

えつとすこません本当はあなた死ぬはずじゃなかつたです”めんなさい

本当は友達の方が死ぬはずだつたのにだからジャンプの中のどつかに転生させました

お詫びとして軽くだけ力を強くしたからそれと若くしたからね ジや頑張つてーー神より

「ええええええ！？」

だつて、神様とか転生とかありえないでしょ 小説の中とかの」とでしょ

それに俺の今の歳は一五歳になつてました

まあ、起きたら仕方ないな。間違いは少々納得いきませんでしたけど。

名門大学の一年生でしたのにせつかく頑張つたのに水の泡だとか思つたりもしたんだよな

だけど原作に関わいたら許そうかなと思つた

で、今の自分の居場所を確かめると”空座町”という場所だった。うん、完全にブリーーチだな。

ただ、なんか環境が違うなんか1800年代ぐらいかな。
原作介入できないのは残念すぎる 神ようらむぎ
だけどいいか普通に暮らせれば

まあ、俺のそんな考えは甘かつた。

1年後 僕は十六歳という若さでまた死にました
なんでかつて そุดななんか散歩をしている途中に頭上から大きな木材が落ちてきて死にました。

また頭上から物が落ちて死亡ですよ（俺呪われているのかな）

やはり、また目が覚めたらなにも無い場所に居ました

そして、俺の目の前には気が遠くなりそうな位長い人の列がありました
した

なんでも^{ソル・シザエティ}魂界に入るには列に並びました。
それから何日かたつてから入れました

結果、俺は運良く一番治安がいい場所に転送されました

適当に暮らそうと思いましたがせつかくこれたんだから死神にならうかなそう思つて

真央靈術院に入学しました。

俺の靈力が高いらしく楽に入学できました（靈力が高いのは神のおかげだと思つ）

そしてとても大変な六年を過ごして卒業しました。

それからいろいろなことがありました（過去編で描くのでカットします）

意外と俺に才能があつたのが驚きました

8番隊に入つてからも毎日死ぬほど本気で修業しました（修業時間
1~8時間でそれから仕事をします）
修業と虚退治は楽しいからいいですが
その後に休憩時間2時間仕事をするんですよ（疲れてくる+めんど
くさい）

そんな修行しても隊長にはならないと思いまましたが
気が付いたら十番隊隊長になっていました
あれ何で俺なんで隊長になつているんだとか思いましたが
まあ楽しいいや樂しかったが正解かな

それと原作キャラは多数会いましたよ例えば当時五番隊隊長だつ
た平子さんや
十一番隊隊長の浦原さんにも会いました。あと、隊長になる前は俺は
八番隊三席で
その時隊長をやっていた京楽さんとも仲がいいです。まあ仕事をし
ないから
その分俺らに来るのでどつちかつていえは嫌いな方です

俺も知らない大きな事件も幾つか起きましたけど三十一~四十年ぐ
らい隊長をやってたら初の原作イベントに遭遇しました。そう、浦
原さんや平子さんが十三隊を抜けた時です。

だって、十三隊に所属すると縛りがとても多いですから 仕事も多いし。
他にも理由がありますけど俺は自由に生きたい（毎日が退屈過ぎるの
で抜けてしまいました

それで現世に逃だしました！！

適当に現世で散歩していたら猫が手紙を持ってきました

えつと久しぶりだね神だよ覚えてる

覚えていた。お忘れでないよ。

今回手織出しだといふとあなたのためはアリート備りてやうなん
だからね

これが最後のお詫びだからね
まあ頑張つて下さいな

卷之三

「なんだよそれ」「独り言で言った後その後走つて逃げましたよ

（た）それとアパートは織姫のとなりの部屋です（ラッキーと思いまし

結構たつて最近は空座高校に入学しました。なぜならば原作があと少しで始まりますから

介�するためは入学しました
容姿は外見た時のままなので見た目
は完全に高校生です

原作介入つて憧れませんかこういうことがあるとどんな人でも介入
したくなりますよね

まあそんな感じだ

俺つて名前言つたけ 多分言つてないから名乗るば
俺は月森蒼牙これからよろしくな

プロローグ（後書き）

読んでいただきありがとうございました

これ書いてからなんか恥ずかしくなりましたが私は気にしません

まあ次回も読んでいただければいいのかな

第一話

s i d e 月森

はあ、学校つて面白いことなんてあまりない、いや全くなくて全然面白くありません

まあそんなことでたまに学校サボります なぜか俺帰つても何も言われませんでしたよ

まあそんなことはおいといて

一護死神になつたらしいです最近見かけているようになりました。
本当はなるとこ見たかつたけどいけなかつたて言うか
いつたらなんか話が変わりそうかなと思つていきました

それで原作つてどんなんだつけたしか織姫のが先だつて石田かチャ
ドだつたけ

わからないなというか忘れた

まあもうすぐ起きるのは間違いないだろつそつ思いながらも学校で
寝る

昼休みになんか今日転校生が來たらしくと聞きました

朽木ルキアらしいです

なんか性格が良いとか話を聞きました

まあ違うとわかっていますが

まあ寝て学校終わりました

俺のこと興味ないのか少しだけ靈圧出してもきずいてませんでした

鈍感なのか俺が地味なのかどっちだろう

その後浦原さんに頼まれた虚退治しました
虚退治は簡単だからいいですが

あいつらこきずかれるのはめんどくさいから一瞬で終わらせます

うん、今田の仕事終わり

終わった後に織姫と一護がいるところをみました
多分、今日だな（あれ何で俺そう思つたんだろう）

浦原さんの店で虚退治の賞金ももらいました

「浦原さんひょっと勉強部屋行つていいですか

まあ最近本気出してないので腕が鈍つてないか確かめないと
「はい、別にいいですよ

そうして俺は勉強部屋に行きましたよ

俺は3本の斬魄刀を持っている
隊長になる前もいまも1本のことしか言つてないし（あいつら以外
はな）
なんとかつてばれるとなんかめんどくさいことになつやうじやねえか

久しぶりに本気でやつてみよう
そう思つたが面倒だ 始解や正解それに技の種類がたくさんあるからな

終わつたら

「うふ、やっぱ腕が鈍つていたな。だけど感覚だけは取り戻せた
な」

そういつた後に気づいた
あたり一面が「ボコボコいやものす」がいろいろ
穴の底は見えない

「うわ、やつすぎた。やべええ」

反省をする

浦原さんとかじきずかれる前にここは逃げよつ
勉強部屋を出て浦原商店を出ようとすると

「お帰りですか」

振り向くと浦原さんでした

「浦原さん・・その・・貸してもいいって・・感謝します・・じゅ
あ急ぐので」

全速力で逃げます

なんか許してくれそうだけビ

もしも穴とか埋めろとかいわれたら大変じゃん面倒だし

ふつじつまでくれば

今日はやりすぎたな2時間も正解の状態でいたからな
だけどまあ久しぶりに本気出せてストレス発散になるぜ

ああ眠い（その時俺は起きていなかった）

その夜は深い眠りにつき・・・ませんでした

なんだからってそれはとなりの部屋で爆発音とかがするからです
あ・・・今日だったのか
しばらくすると音は止みました

一護とルキアが出て行くところ見ると

俺はストレスが溜まつたのでストレスを虚にぶつけるために退治に行きました

見つけた虚を一瞬で消していきました
うん、俺が残虐非道かつていいじゃねえか（俺のストレス発散+人
を襲えなくなるで一石二鳥じゃねえか）

深夜ぐらいでスッキリしたので寝てやった

まあ、そんな感じで夜が明けていったわ

もじよかつたら他の斬魄刀とかも考へてアトそこ
ちよつとネタばれですナビ 風空か疾風ひつがいにでじょつか

もじよかつたら考へてアト

あとが

3本の斬魄刀の名前何にしようかなと考えます

水とか名前付いたのとかとあと二つかの名前考えてください

第一話（後書き）

まあこれくらいでいいのかな

あとがきに書いてある通りお願ひしますよ私も頑張るので
あとびしちがいいか教えて下さいな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5784y/>

BLEACH 転生者

2011年11月20日01時18分発行